

(十四) 角屋での新井周二郎

大宮郷警察署坪山警部補は五日朝五時、影山少尉隊に属し寄居を発ち、荒川右岸を皆野に向かいました。

「皆野村旅宿野口」(角屋)に着くと、

「賊」二人が横臥してしました。二人の郷貫・姓名・負傷の理由を聞くと、四日大淵村長楽寺前の桑畑で見方の「内応」のため斬られたとのこと。なお詳しく訊ねると、味方の騎兵を警官と見誤り、狼狽せしとき警官による「内応」があったとのことでした。

皆野町の秩父事件(21)

経歴書、浅見好夫『秩父事件史』。

「賊」の一人は甲大隊長・新井周二郎。他の一人は門松庄右衛門(三品村・農・五三歳・軽懲役六年、周三郎叔父)と思われます。

四日一時頃、長楽寺前で青木与市

(土京の青木与市と同姓同名) 巡査に

斬られ負傷した新井周二郎は、立沢の

村竹茂市らが戸板に乗せて角屋に運び

込みました。おそらく田代栄助・井上

伝蔵らは角屋から姿を消した直後のこ

とどと見られます。本野上・上吉田方

向に向う困民党軍は去り、その他の

人々も徐々に居なくなり、周三郎と介

護役の門松庄右衛門だけが角屋で夜を

明かしたのです。

翌六日、庄右衛門は周三郎を叢山に

隠し、自分はそのから逃走しましたが

一月一日寄居署に自首しました。

周三郎は、叢山から山伝いを辿り、

恩師の住む三品の明善寺に逃れますが、

一月九日逮捕されます。(恩師の密告

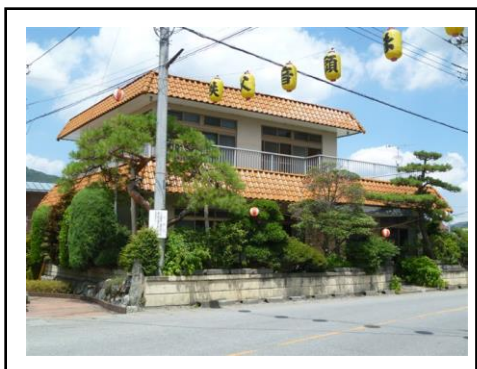
説もある)。一八八五年五月一七日、熊

谷監獄支所で田代栄助・加藤織平・高

岸善吉とともに死刑が執行されました。

行年二二歳。

(現在の角屋)



新米議員のひとりごと 常山 知子

4月1日付「しんぶん赤旗」日

刊紙の「わが街・ふるさと」欄に、

皆野町を紹介させていただきま

した。

「美の山」の山頂、県立美の山

公園は桜の名所です。「道の駅み

なの」のレストランの手打ちうど

んがおいしいですとか、皆野町に

は多くの秩父事件の物語があり、

「みな民報」には『皆野町の秩

父事件』が連載され、多くの方に

読んでいただいています。

毎年「秩父音頭まつり」が盛大

に開催されています。

要約するとそんな内容です、い

ざ皆野町を紹介と、あれもこれも

と欲張ってみました、紙面のス

ペースもあり半分くらいに割愛

されました。

「記事を読みました！いま秩

父音頭を習っています。今度皆野

へ行ってみたいです」と面識の

ない京都の方からのメール。

友人からは、「知子さんの秩父

音頭を思い出したよ！」と電話が

きたり、一つの小さな記事にあり

がたい反応で、うれしいやら恥ず

かしい思いです。

これからも機会があれば、いろ

いろなところに皆野町のよさを

紹介していきたいですね。

それにはまず「わが街・ふるさ

と」をもっと知ることかもしれ

ません。

維新の会 西田議員が暴言

被ばく線量はわずか 避難民を帰郷させよ

日本維新の会の西田議員は13日の衆院予算委員会で、福島復興問題について「でたらめな推定によって設定された帰還制限区域、居住制限区域は直ちに廃止して、避難民を帰郷させる。これが科学的に唯一、正しい行政である」と述べ、福島原発事故の避難者を危険な汚染地域に戻すよう求めました。

西田氏は、原発事故による住民の避難指示を「憲法第22条第1項に違背する居住権の禁止、故郷選択の自由のさんだつ」と非難し、「広範に飛散したのはセシウムのみ。そのセシウム線量は微量で、個人の外部被ばく線量は年間累積でわずか数ミリシーベルトと主張を展開。あげくには「日本経済の発展を阻害す

べく、反原発を宣伝する手段とまで言い放ちました。これには石原伸晃環境相も「私も困難区域に行ってきた。1年間に對する被ばく量を計算したら年間20ミリシーベルトを超えてしまう。そこに帰っていいということは現政権でも言えない」と答えざるを得ませんでした。他党議員から「それは維新の方針か」の声が上がるほど、同党の人命・安全軽視、非科学性が浮き彫りになりました。

「しんぶん赤旗」3月14日付より

国会での日本維新の会